

新今宮観光インフォメーションセンターの 運営とまちづくりに向けた社会的実践

阪南大学国際観光学部松村研究室

学生代表 ○丸市 将平・久保田 早也佳 研究室代表 松村 嘉久

1.活動方針・目的

阪南大学国際観光学部(2010年4月より)松村研究室は、教員とゼミ生らが一体となって現場と関わり、現場で実践するなか現場から学び、現場と共に育つ「現場共育」という方針のもと、大阪市の新今宮地域(あいりん地域・新世界も含む)において、まちづくりに向けた社会的実践を展開している。我々の活動の目的は、大阪府簡易宿所生活衛生同業組合(以下、簡宿組合)・大阪国際ゲストハウス地域創出委員会(以下、OIG)・ホテル中央グループ・地元商店街などと協働して、新今宮地域を外国人個人旅行者(以下、FIT)らが集い楽しめる大阪国際ゲストハウス地域へと変貌させることにある。我々の活動はかつてこの場で紹介させていただいたが、今回はその後の展開について報告したい。

2.活動内容

新今宮地域におけるFITの誘致は順調に進み、近年の外国人宿泊者数は年間のべで8万人近くにもなる。現在、まちづくりで求められているのは、(1)FITに様々な情報やサービスを提供して、関西圏観光の宿泊拠点化を促進すること、(2)FITと地域社会とを確実かつ適切につなぎ、FITの満足度を高め滞在の長期化を促し、地域経済の底上げ地域再生を図るとともに、地域全体でFITをもてなす機運を高めることである。

以上の認識のもと、我々はOIGやホテル中央グループなどからの支援を受け、「民設学営」という産学連携の形で、2009年7月から「新今宮観光インフォメーションセンター(以下、新今宮TIC)」の常設運営を始めた。基本的には土日のみ、3・8・9月など大学の長期休暇中は毎日、9時から16時まで運営している。新今宮TICの場所はホテル中央グループから無償かつ無条件で提供、光熱費ほか運営コストは簡宿組合・OIG・ホテル中央グループなどから支援していただき、実際の運営は全て我々を中心とする学生ボランティアが行っている。国際観光学を学ぶ学生ボランティアにとって、新今宮TICはその最前線で実践的に学ぶ場であり、講義では学べない貴重な経験を積んでいる。新今宮TICの存在は、利用するFITからは喜ばれ、地域のゲストハウスや商店からも喜ばれ、ボランティア学生も充実感が得られるものであり、産学連携の理想的な事業モデルと言える。

新今宮TICの活動は、(1)主にFITに対する観光情報の提供と旅の相談、(2)FIT向けの着地型街歩きツアーの企画と実施、(3)国際観光に関する調査研究活動とまちづくりに関する社会的実践、の三つに大きく分けられる。2009年のはじめ120日間の運営で、1,350件2,347名の利用があり、759名の学生ボランティアが対応した。2009年に6回実施した新今宮TIC発の着地型街歩きツアー“Let's walk around OSAKA!”では、のべ78名のFITが93名の学生ボランティアの案内で、大阪の「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を楽しんだ。FIT向けの街歩きは2010年も6回実施する予定である。新今宮TICは単に旅行者に情報提供するだけの場所ではない。2009年夏には、ここを活動拠点として、FITの実態に関するアンケート調査やゲストハウス経営者への聞き取り調査を行い、2010年春からは、「新今宮地域情報サイト」を立ち上げる活動が本格的に始まった。

3.他の活動団体の参考となる事例

日々の活動で頭を悩ませていることを箇条書きするならば、(1)FIT性善説の危険性の認識およびFITとの距離感のとり方、(2)学生ボランティアの確保・育成・マネジメント・やる気の喚起、(3)TIC運営での社会的実践と大学での講義との弁証法的連動をどう構築するのか、などが挙げられる。

4.今後の課題等

最大の課題は、新今宮TICを継続運営できる体制を構築することである。加えて将来は、民設学営というしがらみのない立場から、(1)関西一円の主要観光地にあるTICとの広域連携の推進、(2)地元商店街・鉄道事業者・行政担当者など多様な組織や個人からなる拡大OIGの形成に取り組みたい。



阪南大学
HANNAN UNIVERSITY

新今宮観光インフォメーションセンターの運営と まちづくりに向けた社会的実践

阪南大学国際観光学部 松村嘉久研究室
学生代表 丸市将平・久保田早也佳

松村研究室の方針と新今宮地域

- ・ **「現場共育」**: 現場と深く関わり現場で実践するなか現場から学び現場と共に育つ
- ・ **新今宮**
 - 交通アクセス抜群
 - 分断されたディープな空間新世界・通天閣: 観光客で賑わう
釜ヶ崎・あいりん: 厳しい現実と地域再生への熱い想い
- ・ **日本最大のドヤ街** 釜ヶ崎・あいりん地域に対する**劣悪なイメージ・偏見・差別**
- ・ 日雇い労働者の街から野宿生活者・生活保護受給者の街へ
- ・ **簡易宿所(ゲストハウス)の存続の危機**

200軒(1980年代)から80軒余り(2010年現在)へ



図1 新世界からあいりん地域にかけての空間編成

注: あいりん地域の範囲は参考文献の水内俊雄ほか(2008)の297頁に準じた。

釜ヶ崎の「ドヤ街」から 新今宮の「国際ゲストハウス地域」へ

- 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会(OIG)・大阪府簡宿組合・ホテル中央グループと松村研究室の協働
 - 外国人個人旅行者(FIT)の積極的誘致と受入れ環境の整備
 - **驚異的な成功**: 2004年1万泊以下から2008年 FITのべ8万泊
 - 地域イメージ改善で日本人宿泊者も激増
 - 第2回関西元気な地域づくり発表会(2007年2月16日)
 - ①「大阪国際ゲストハウス地域を創出する重要性と可能性を探るなかで」松村嘉久・濱中勝司・滝井彩ほか歴代松村ゼミ生一同。
 - ②「西成区あいりん地区の外国人旅行者を活かした地域づくり」, 西口宗宏・山田英範・松村嘉久。
- 第1段階の「FIT積極的誘致」から
第2段階の「**FITの存在を活かしたまちづくり**」
第3段階の「**持続可能な発展**」へ
- OIG・簡宿組合・ホテル中央グループ・地域社会から「観光インフォメーションセンター(Tourist Information Center: **TIC**)」開設の相談(2008年末)

新今宮TICの設立の背景と活動内容

設立の背景	活動内容
• ゲストハウスからの期待 – 地域資源としてコンシェルジュ機能を共有 – 企画提案型TICで長期滞在 – 宿泊客の満足度の向上 • 地域社会からの期待 – 商店街などへの経済効果 – 観光客と地域社会のトラブル発生要因の軽減 – 若い学生らが集う意義 • FITの観光行動とニーズ – No Planな長期滞在 – 広域観光情報や地域密着情報	1. 観光情報の提供と旅の相談 2. FIT*向け街歩きツアーの企画・実施 3. 調査研究活動およびまちづくりの社会的実践 – FIT向けのアンケート調査 – ゲストハウスの経営モデルの聞き取り調査 – 商店街の店舗紹介コンテンツ取材と新今宮地域情報サイトの立ち上げ *FIT(Foreign Individual Tourists) = 外国人個人旅行者

民設学営の意義

公設公営TICの制約

- 地方自治体(税)で運営
 - 特定のホテルやレストランを紹介できない
 - 他の地方自治体の観光地は基本的に紹介しにくい

「学」として関わる

- 実践的な**学びの場**
- 学ならではの情報発信 2009年11月「日本観光研究学会全国大会」での発表
2010年3月12日「関西の元気な地域づくり発表会」

⇒学術的に位置付け発信

民設学営の新今宮TIC

- **地域社会＋地域企業＋大学のコラボレーション**で設立
 - 場所:ホテル中央グループとOIG提供
 - 人材:阪南大学提供
 - 地域:期待を込め見守り協力
 - **しがらみのない自由な立場**
 - お薦めの旅のプランやレストランなども自由に紹介できる
 - 関西圏の観光情報を広く提供
- ⇒**関西圏TICの広域連携への働きかけ**
- 観光地でなく宿泊地に存在するTICという立ち位置

新今宮TICの特徴と運営概況

- 新今宮TICの運営実態
 - 大学の**長期休暇中は毎日**
 - 平常授業時は土日のみ
 - 09時から16時まで
- 問合せは**旅の相談・お薦めの提案・滞在や生活系のニーズ**が多い
- リピーターも多く近隣への同行案内もする
- 2009年運営概況
 - 120日間で1,350件・2,347名の利用
 - 利用者の**約8割は世界50数ヶ国からのFIT**
- 2010年は約180日の運営を見込む(今日も運営)



自転車旅行するFrench Coupleと



陽気で心優しいFITたち

Let's walk around OSAKA!! (2009年) 概要

Let's walk around OSAKA!! (2009年)				
No	実施日	街歩きツアー	地域	所要時間
1	4月21日(火)	大阪の繁華街の裏路地を歩く	千日前・道頓堀・日本橋	3h
2	6月20日(土)	大阪の職人芸を歩く	住吉大社・堺	4h
3	6月21日(日)	大阪のディープサウスを歩く	天王寺・新今宮	2.5h
4	7月12日(日)	大阪の伝統集落を歩く	平野	3.5h
5	7月19日(日)	大阪のマイノリティの三角地帯を歩く	桃谷・鶴橋	3.5h
6	10月4日(日)	大阪の職人芸を歩く	住吉大社・堺	3h

- ツアーの意義
 - 大阪の魅力発信基地へ
 - 大阪観光の生き残る道は **Community Tourism**
- ツアーの選定基準
 - 新今宮からの **日帰り**
 - **イベントや季節感**
 - 英語での解説案内
 - 参加費無料, 実費負担のみ
 - Guesthouseと協働で参加募集
- ツアーの成果
 - 6回でFIT参加者78名スタッフのべ93名
 - FITは楽しみ, 学生は学ぶ, **Winwinの国際交流の場**
 - 新今宮でしか成り立たない **着地型ツアーの確立**
- 2010年ツアーの予定
 - 新たな **挑戦**も3ツアー

新今宮TIC・新今宮地域の今後の課題

新今宮TICの課題

- あり得ないことが起こる **国際観光の最前線の現場**
 - **現場と教室の往復**のなかで学びを深める場へ
- 学生による **継続的運営**に向けた体制づくり
 - 絶え間のない進化と深化
- 調査研究・まちづくりの拠点化

新今宮地域の課題

- **拡大OIG**の結成
- 来訪者激増にともなうトラブルの未然防止: **鉄道事業者・道路管理者の協力が必要不可欠**
 - 釜ヶ崎を彷徨う修学旅行生の実態
 - 太子交差点での悲喜劇

